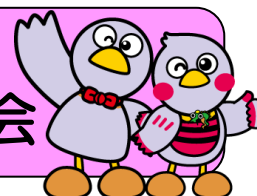


平成30年度 東部地区学校・家庭・地域連携実践発表会



1 目的

「学校応援団」「放課後子供教室」「埼玉の子ども70万人体験活動（みどりの学校ファーム）」の取組の発表を通して、取組推進のあり方を協議し、各事業の充実を図る。

2 期日・会場

平成30年11月28日（水） 蓮田市総合文化会館 ハストピア

3 参加者数

合計 291人

学校・教育委員会：167人

保護者・コーディネーター等：124人

4 実践発表者

○「学校応援団」について

吉川市立北谷小学校

○「放課後子供教室」について

行田市教育委員会ひとつくり支援課

○「埼玉の子ども70万人体験活動 みどりの学校ファーム」について

蓮田市立蓮田南中学校



5 実践発表

「学校応援団」の取組

吉川市立北谷小学校の取組について

<実践の概要>

- コーディネーターは、代々地域に根付いた方が務めているため、地域・自治会とのつながりが大変強く、そのため学校応援団の活動も大変活発である。
- 毎年12月に集会委員会の計画で学校応援団の方々に対する「感謝の会」が開かれている。日々協力してくださる方々に歌をプレゼントするなど、あらためて感謝の気持ちを伝えることで、お互いの心が通い合う素敵な時間となっている。
- 子供たちが地域の方の顔を知ることによって、今まで以上にあいさつがしっかりとできるようになった。

【指導講評】 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

- 家庭・地域だけではなく、企業・団体、行政等との連携・協働は、実社会とのつながりを意識した「社会に開かれた教育課程」の実現に資する取組となっている。
- コーディネーターの複数配置によって、負担を軽減するだけでなく、活動の継続性の維持も見据えた対応となっている。



「放課後子供教室」の取組



行田市教育委員会ひとつづくり支援課の取組について

<実践の概要>

- 「放課後の居場所づくり推進事業」を活用し、新規開室へ向けた人財確保等の調整役である「行田市放課後子ども教室アドバイザー」を委嘱している。
- 地域実行委員会の設置により、学校・保護者との連携が深まり、自立型の協働組織となっている。

【指導講評】 埼玉県教育局市町村支援部生涯学習推進課

- 学校運営協議会委員の方が放課後子供教室にかかわること、放課後子供教室の関係者が学校運営協議会に委員として参画することは、放課後子供教室の活動を学校とともに考えることに繋がる。
- 地域に詳しい方をアドバイザーに任命することで、スタッフ集めもスムーズに行うことができている。
- 地域の特色を生かしたプログラムやスタッフのスキルを生かしたプログラムが多数実施されている。これは、幅広い地域の方が参画している証である。

埼玉の子ども70万人体験活動

「みどりの学校ファーム」の取組



蓮田市立蓮田南中学校の取組について

<実践の概要>

- 学校教育目標「豊かに たくましく 夢を求めて 切り拓く生徒」の具現化を図るために、学校ファームの集団的作業を活用。協力性・協調性・社会性を養っている。
- 収穫した食材は、家庭科で調理実習に使用したり、バザー販売でPTAに提供したりしている。特別支援学級では、バザーで販売した収益の一部で買い物学習を行い、キャリア教育にも役立てている。
- 地域で作られる農産物や地域に伝わる食文化を知ること、地域農業や職業としての農業への関心・理解・認識を深めている。

【指導講評】 JA埼玉県中央会地域振興部くらし・農政広報課 埼玉県農林部農業ビジネス支援課

- 学校応援団をはじめ、地域の方々のサポートが手厚い。積極的に地域とつながる取組を推進しているからである。農業体験を通じて命の大切さを知ってほしい。
- 農業体験を通じて、子供たちを育てている。結果だけではなく、プロセスを大切にして、今後も取組んでほしい。